

## 会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	会 議 ・ 打 合 せ ・ 協 議	文書番号	698
		決裁期日	平成 22 年 12 月 7 日
名 称	上富良野町地域新エネルギービジョン策定委員会 第 3 回会議		
日 時	平成 22 年 12 月 6 日 (月) 午後 1 時 30 分～午後 2 時 50 分		
場 所	保健福祉総合センター研修室		
出席者	策定委員 12名、オブザーバー 1名、事務局 3名、委託調査会社 1名 計17名 (別紙名簿のとおり)		
内 容	<p>策定委員会の第 3 回会議を開催、その概要は次のとおり。</p> <p>1. 開会 町民生活課長から開会を宣言し、欠席の委員を報告。</p> <p>2. 委員長挨拶 濱田： 第 3 回目の会議は主要な 2 つの議題があり、報告書の取りまとめに向けた重要な会議になるので委員からの意見を願います。</p> <p>3. 議事 濱田委員長の司会により進行する。</p> <p>(1) 新エネルギー導入の推進方策について (13:32～)</p> <p>(2) 重点プロジェクトの検討について ㈱ドーコンから資料 1・2 に基づきスクリーンを用いて説明。 委員長： 資料 1 及び 2 を通じて意見を願います。 星主幹： 重点のエネルギーには、当面短期的に効果の高いものが抽出されているが、これまで地熱に関する意見が出されていた。導入にはハードル高いと思われるが、その可能性も含めて取り上げてはどうか。 ドーコン： 地熱に関しては、導入事例が少なく、参考に出来るデータも少ない状況。踏み込んだ提案にならないが、可能性も含めて取り上げていくことは可能と思う。 委員： 地球温暖化対策実行計画に掲げる数値目標 25%削減に対して、新エネと省エネによる取り組みで達成できるよう新エネの目標量を設定されているのかどうか。 ドーコン： 資料の確認を行うが、25%が達成できるものと思う。 委員： エネルギーの利用可能性に温泉熱、残材が地域特性として示されていた。可能性もあるので、新エネの 1 つとして重点プロジェクトにのせてはどうか。地球温暖化対策実行計画の進行管理から太陽光などの成果で足りない場合に導入を検討できるように頭だししておいてはどうか。 ドーコン： コスト面などの課題から重点に入れていないが、加えていくようにしたい。 委員： この内容ではどこのビジョンとしても同じに感じる。新エネに関す</p>		

る技術はこれから発展することもあり、上富良野の特色をのせてはどうか。  
委員： 上富良野の特色を生かすこと必要だが設備投資などの課題もあると思う。バイオマスに関心あるので、投資費用や効果などの事例を示していただきたいと思う。発電するにしても、その電力を何に利用するかを考えていくことも必要。

ドーコン： 資料に関して可能な限り示していきたい。

生活環境班主幹： 新エネの導入に関して、町としては家庭向けのものを優先しバイオマスなどはその次をイメージしている。バイオマスに関しては町の事情から理事者も関心を示しているところである。

今回において第1章から第7章までの内容の協議が進み一定の形になってきている。具体のことについては、平成23年度からのスケジュールとして示されている。

委員： 家畜排せつ物の賦存量は多く可能性は高いと思う。地域においてはその臭いが気になっているので、バイオマスの力で臭気を抑えることが出来れば大きな効果が得られると思う。現在、環境が注目されているので、今後もこのような意見はあると思う。

生活環境班主幹： バイオマスに関しては新エネの考えから除くということではなく、可能な順位を考えていきたいと思う。

委員： 農業分野に関しては、JAふらのとして集荷体制をとっているのので、上富良野支所独自に考えられるものは難しいと思う。バイオマスに関しては、設備投資などの個人負担、ランニングコストなどの課題があると思う。ハードルは高いが町の助成策などあれば検討したいと思う。

委員： 経費面が課題と思う。費用対効果があがればよいと思う。

委員： 普及啓発プログラムに学校における環境教育プログラムが示されている。現在は各学校において環境全般の教育を進めており、ここにエネルギービジョンを取り込むには、全町的に環境の中にエネルギーを取り入れていくことを示すものが必要。現在、総合学習の内容について検討を進めており、環境やエネルギー分野を加えていくとすれば助言をいただきたい。課題として、見学施設が無いなど、トータルにエネルギーを考える場について検討が必要と思う。

委員長： 貴重な意見としてプロジェクト内容に反映していきたい。

委員： 環境教育に関してエネルギーに絞っては危険と思う。自然環境や現状の社会環境をよくしていく上でのエネルギーとして考えていくことが大切と思う。環境学からなぜエネルギーなのかを考えるようにしてほしいと思う。指針を作った後は実行することが大切なので進めていただきたい。マンガによるパンフレットなど、子どもにわかりやすいものを全町民に配布してはどうか。畜産の臭いは経営者にとっては香りであり、町民と畜産事業者の話し合いがこれまで行われてきていないので、行政が間に入り解決策について話し合うことが必要と思う。

委員： 学校においては子どもが実感できるものが必要と思う。目に見える機器を置ければ良いと思う。大きな高価なものでなくても、早めに実験として置いてみることもどうか。上富良野の特徴として地熱、温泉熱があるので夢を持つことも大切ではないか。バイオマスの話については、畜産は町民皆さんに恩恵があるものと思う。解決していくことは町の力と思うので、町として根本的な課題に取り組んでいくことが重要と思う。

委員長： 意見は報告書に反映していきたいと思う。

委員： 先日、風力発電に関することがテレビで紹介されていた。多額の投資に対して施設が順調に稼動しなく借金の苦しさが示されていた。事業には大小があり、実験的なことから取り組んでいくこともあると思う。現状では効果と課題が見えてこなく、資料やデータが不足していると思う。課題に関する補足の情報を出していただき、委員の共通理解を深め議論できればと思う。

委員： 当会の目的を再確認していくこと必要で、この会は理想論を語るのか実行できる内容を検討するのかどうか。事業を実施するためには財源が必要になるが、どのような対応が出来るのか。

委員長： このビジョン作りは、今後の事業計画を策定するための準備作業になる。

委員： 財源を探すことや実行に移していくには年数が必要になり、その中で色々と変化していく。色々なエネルギーがある中で、財源も含めた現実的なものを町としてはどのように考えられているのか。

町民生活課長： ビジョンに関しては白紙の状態にあり、皆さんに協議いただき今後の方向性について示していただきたいと思う。

委員： 実施に向けては財源が重要な課題になるが、現実的にはどうか。

委員： 先の省エネルギービジョンでもこの課題は同様に受け止められた。予算化にはこのようなビジョンが必要と聞いている。

委員： ビジョン作りに関して委員の皆さんは疑心難儀に感じているのではないか。

委員： このビジョンを生かし実現に向かっているところはあるのか。

委員： 南富良野町では同様のビジョンを生かし、具体的に太陽光発電のシカ防止柵への活用や木質ボイラーによる暖房が検討されている。

委員： 現実的な話が必要と思うが、このビジョンの生かされ方はどうなるのか。

生活環境班主幹： ビジョンは議会にも報告させていただき、町財政の活用の際にこのビジョンを示しながら議論することとなる。

委員： 議論には具体の財源まで示すことが必要と思う。

生活環境班主幹： 具体のものは必要と思う。次回会議には追加資料などの説明も考えていきたい。

ドーコン： 当事業はNEDOの初期ビジョン策定事業で、今後は重点とし

て実証試験や実用化などにステップアップの流れが考えられる。国においては助成制度の見直しなど行われており、今後の中で具体的なことが検討されることになると思う。

委員： 重点の方向性を示していくにはもっと議論する必要があると思う。

委員長： 皆さんには色々と意見を出していただいた。次回会議は、1月27日の木曜日、同時間での開催を予定するのでよろしく願います。

4. その他： なし

終了 (14:50)